

平成28年度一人一人が輝く活力ある学校づくり推進事業 実施報告書

1 事業名称	若舩育成プラン事業	
2 実施内容	<p>○若舩キャリア育成プログラムの推進</p> <p>①自己実現の意識醸成のための上級学校・企業訪問（1学年生徒全員がバス5台で大学・短大・専門学校・企業を訪問する）</p> <p>②望ましい勤労観・職業観・人間関係形成能力育成のための就業体験（2学年就職希望生徒全員が約30か所の事業所で就業体験を行う）</p> <p>○若舩スペシャリスト養成プログラムの推進</p> <p>③将来のスペシャリスト養成のための難関検定対策ゼミ（希望生徒が外部講師による難関検定試験受験のための対策ゼミを受講する）</p>	
3 事業成果	<p>①1学年生徒全員が希望する5コースに分かれて(1)作新学院大学・大原学園宇都宮校(2)宇都宮ビジネス電子専門学校・森永製菓小山工場(3)晃陽看護栄養専門学校・三菱マテリアル筑波製作所(4)小松製作所小山工場・TBC学院宇都宮校(5)筑波研究学園専門学校・雪印メグミルク阿見工場をバス5台で見学・研修した。生徒たちは見学先で担当者から説明や案内を受けるだけでなく、様々な模擬体験なども行い進路についての認識を深めた。</p> <p>②自信と誇りをもって本校生徒を社会へ送り出すことを目的として、2学年就職希望生徒59名が、望ましい勤労観・職業観や人間関係形成能力を育成するための就業体験（インターンシップ）を22か所の事業所（企業）で行った。生徒は事前指導での自己紹介文や依頼文、そして事後の報告書・礼状などを作成しながら、甘えのきかない社会の一端に触れる貴重な機会を得た。更に、多くの生徒が事業所における自分の仕事は自分に任された代替のきかない仕事であり、責任をもって遂行しなければならないという重みを実感することができたものと思われる。自分が一生懸命に取り組み、責任を果たそうとする際にどうしてもぶつかる困難を乗り越えなければならない時に、事業所の方々からいただいた適切なアドバイスは何よりもありがたく感じられたようである。また、責任を果たすためにも、職業選択の際には情報収集に時間をかけ熟慮の上に決断をすることが大切であることも学んだものと思われる。</p> <p>③日商簿記2級を取得するための外部講師（東京IT会計法律専門学校）による講座を平成28年5月14日（土）28日（土）6月4日（土）11日（土）9:00～13:00の4日間実施した。2級レベル（30名）3級レベル（10名）が受講し、6月検定は2級合格5名、3級合格2名。11月検定は2級合格0名、3級合格5名であった。平成29年2月4日（土）9:00～13:00、25日（土）9:00～16:00、26日（日）9:00～13:00の3日間、3級レベル（40名）が受講した。3級に2名が合格した。ITパスポート対策講座については、今年度は実施されなかった。</p>	
4 事業評価 ①目標達成度	B	<p>A（81%以上の達成状況）</p> <p>B（60～80%の範囲内の達成状況）</p> <p>C（50%程度の達成状況）</p> <p>D（30%以下の達成状況）</p>
②目標達成度の根拠	<p>①ほぼ全ての生徒が、今回の見学や体験を今までの漠然とした進路に対するイメージから、より具体的な進路選択へと発展させるきっかけにすることができたと考えられる。</p> <p>②当初はインターンシップの最大受け入れ可能人数を88名で設定したが、（昨年の参加者は91名）実際に参加したのは59名に留まった。事前指導を行う段階で参加者を絞っていくこととなったためであるが、将来の職業選択に役立てるといえる十分な見学や体験の機会に恵まれた。就職希望者全員に当てて行うよりも、課題を絞り、実施した。</p>	
5 生徒感想・意見等 ※簡潔に記入	<p>・将来は就職かなと思っていたが、専門学校でこれをやりたいと思えるものに出会えた。これから1年かけてじっくり就職か進学か考えたいと思った。</p> <p>・福祉・医療は専門的で非日常的なことが多いと思っていたが、人とのつながりやコミュニケーションの大切さを学ぶ場所であることを知った。</p> <p>・医療関係の仕事に就きたいと考えていたが、今回の見学や体験からさらにその仕事に就きたいと思った。そのために今からできるだけの努力はしていきたいと思った。</p> <p>・職場では、どんな人も自分の仕事に誇りをもってやっているということがわかった。</p>	
6 担当者意見 ※簡潔に記入	<p>・この進路体験ツアーを実施して、生徒は今の学校生活の過ごし方が卒業後の自分の人生につながっていくことを実感して、より真剣に授業に取り組むようになった者もいるなど、良い変化が見られた。</p> <p>・生徒が自分の考える進路を実現するためには強い意志が必要であり、そのために必要な時間は限られていることに気付かされるなど、今後の学校での指導をスムーズに進めることにも役立つ効果的な行事である。</p> <p>・就職を希望している生徒は取り組みの意識が高く、事業所を直接訪問して打合せを行うなどの事前指導がよくできた。</p> <p>・部活動を毎日遅くまで行っている生徒は、アルバイトを経験する機会もないが、今回の就業体験に参加することで、その仕事に対する自分の適性をしっかりと認識することができたりするなど有益であった。</p> <p>・自分の親、学校の教師以外の大人との仕事を通しての直接の触れ合いで、生徒はコミュニケーション力の幅を広げることができた。</p> <p>・大変わかりやすい説明で、教科指導をする上で、参考になった。</p> <p>・この講座を実施することで、生徒の知識理解を深めることができたので、次回合格に向けて指導を続けていきたい。</p> <p>・今後、積極的に生徒へ日商簿記2級の紹介を行い、受験者を増やしていきたい。</p> <p>・ITパスポートは内容が高度であるため難関であるが、まずそれに挑戦しようとする気持ちを持たせる指導を工夫していきたい。</p>	
7 事業費	509	千円
8 広報手段 ※学校の取組を、積極的に外部に発信すること	<p>ア 学校のWebページ（必須）</p> <p>イ 学校のWebページ以外の広報手段</p> <p>・学校便り「若舩」に、インターンシップや進路体験ツアー実施の記事を掲載し、近隣小・中学校、学習塾に送付した。</p> <p>※冊子等の印刷物、教育委員会Webページ（フォトニュース・学校自慢等）、教育委員会ツイッター、いはキラTV等、使用した広報手段を具体的に記入すること。</p>	
9 運営組織 ①名称	若舩育成プラン事業推進委員会	
②構成員の人数	7名	